大阪船員保険病院だより

Vol.69 平成26年１月

目　次

◆ 新年のご挨拶
◆ 蓄膿症（慢性副鼻腔炎）ってなに？！！
◆ クリスマスイベント

新年のご挨拶
地域の皆様に愛される病院を目指して

院長　別府　慎太郎

みなさん、明けましておめでとうございます。穏やかで良いお正月を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年も、大阪船員保険病院は、診療科、看護部、検査部、栄養管理部をはじめ全ての部門が一致協力して、大阪ベイアリアにお住まいの方々の健康を守り、病気の早期発見や疾病の適切な治療を進めてまいります。安心でき、信頼できる診療を提供する所存です。

幸い、整備を進めている種々の医療機器もその成果を発揮しています。その恩恵を受けられた方々も多いと思いますが、例えば、三次元ナビゲーションシステムは整形外科の人工関節手術に、レーザー治療は形成外科の下肢静脈瘤治療に、光線治療は皮膚科の難治性皮膚疾患に、内視鏡的手術は消化器外科に不可欠となっています。医師をはじめ、看護師、医療技術者たちの医療技術の習得も病院として積極的に進めています。例えば、昨年は臨床検査技師の中で、新たに超音波検査士の資格を得た者が３名増え、明らかにその検査内容は充実してきています。

普段の診療とは違いますが、発生時期を予想できない災害に対しても準備を進めています。近い将来に発生すると言われる南海トラフ大地震に対しても、幾つかの準備をしています。その訓練の一部は新聞ででも報道されましたので、ご承知の方も多いと存じます。港区区役所、港区医師会、調剤薬局、消防署、救急隊とも協力して、万一の場合に備える体制の構築が進んでいます。

とはいえ、この病院が皆さまの期待に応えていくためには、皆さまのご意見が必要です。院内の諸処にご意見箱が備えてありますので、ご遠慮なく問題点をご指摘頂きますよう、お願い致します。

さて、今年３月より、病院名が「大阪船員保険病院」から「大阪みなと中央病院」となります。現時点では仮称の段階ですが、病院経営母体が一般財団法人「船員保険会」から独立行政法人「地域医療機能推進機構」に替わることに伴う変更です。この新しい機構の使命は、名の通り、地域医療を充実させるということで、従来私どもが皆様方に尽くしてきた姿勢を更に進めていくことになります。この機構には日本全国で57の病院が参加します。これは大変喜ばしいことで、日本が初めて「地域医療」を本気で考えている証と思っています。

今年も、昨年同様、皆さんに愛される病院を目指しています。この病院があるから安心といわれるように、今年もがんばります。

大阪船員保険病院は、（大阪みなと中央病院は）、地域の皆さんの病院です。

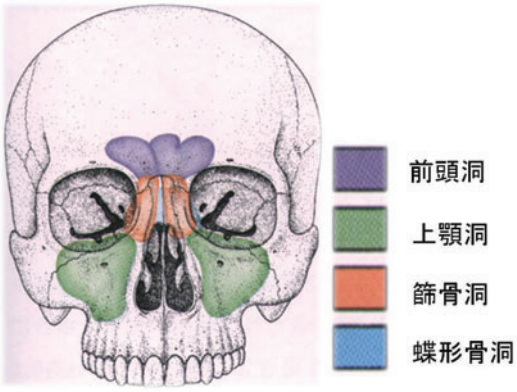
～蓄膿症（慢性副鼻腔炎）ってなに？！！～

耳鼻咽喉科　竹 林 宏 記

はじめに

五感のひとつである嗅覚は、鼻の重要な機能です。その他の働きとして、加温・加湿・除塵があります。そして、鼻腔を取り囲むように副鼻腔が存在し（図１）、正常の鼻腔と副鼻腔は細いルート（自然口）で交通しており、空気で満たされています。

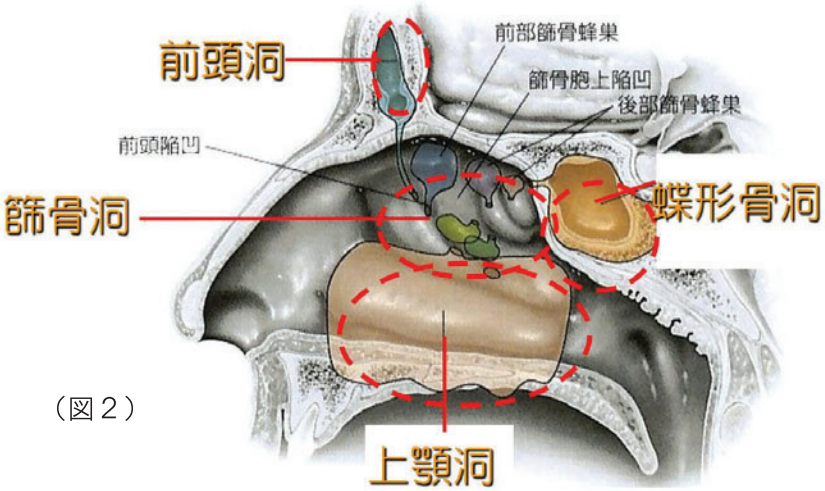
しかし、換気排泄路がうまく機能せず副鼻腔に空気が入りにくくなると、副鼻腔内に炎症をきたし、この状態が慢性化したものを蓄膿症と呼びます。



（図１）

副鼻腔について

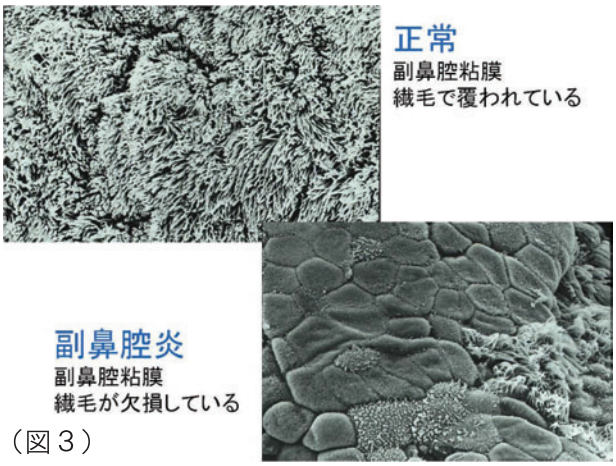
蓄膿症（慢性副鼻腔炎）の病態を理解　するためには、副鼻腔の構造を頭に入れておく必要があります。副鼻腔とは、鼻の中（固有鼻腔と呼ばれる）に接するように存在する骨に囲まれたいくつかの空洞のことをいいます。前頭洞（ぜんとうどう）・上顎洞（じょうがくどう）・（前・後）篩骨洞（しこつどう）・蝶形骨洞（ちょうけいこつどう）に分かれています（図２）。



（図２）

それぞれの働きとしては、
１）音声の共鳴腔
２）加温・加湿の補助
３）ショックの緩和
４）顔面骨の発育の補助
５）頭蓋骨の軽量化
などがいわれています。

鼻・副鼻腔の粘膜の表面には線毛細胞が存在し（図３）、同一方向に動き吸着した異物を粘液とともにベルトコンベヤーのように奥に運びのどへ送り出す（線毛機能）しくみになっています。



（図３）

副鼻腔炎とは

副鼻腔炎は、急性副鼻腔炎と慢性副鼻腔炎に分かれ、慢性副鼻腔炎は一般的に「蓄膿症」といわれている病態です。

では、なぜ副鼻腔炎がおこるのでしょうか？

もともと鼻腔と副鼻腔の連絡通路が狭く、感染やアレルギーによる急性炎症の繰り返しにより鼻腔粘膜が腫脹し、副鼻腔内の粘液輸送が障害されます。それにより線毛細胞が減少し、杯細胞が増加し、粘液産生の増加し細菌感染による炎症の遷延がおこります。そのことにより線毛細胞が減少し、杯細胞が増加し、副鼻腔内の粘液輸送が障害されるという悪循環がおこります。結果的に鼻腔と副鼻腔の交通がたたれ、閉鎖腔となった副鼻腔で排泄・換気障害が生じて病態が完結します。

慢性副鼻腔炎

＜病因・症状＞

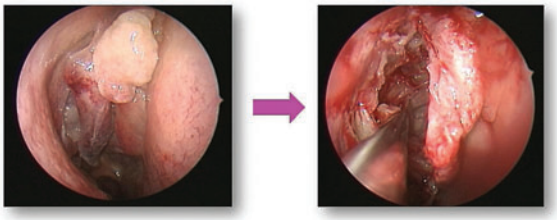
基本的には「鼻副鼻腔症状が３ヶ月以上続く場合」と定義されています[2)]。急性炎症の治癒の遅延化や反復によって慢性副鼻腔炎に移行します。細菌性、アレルギー性、真菌性、歯性などに分類されます。

また、急性炎症が慢性化する背景として、アレルギー等による鼻・副鼻腔ポリープ（鼻茸）や、鼻中隔彎曲症などの器質的病変や、アレルギー要因、また生活環境要因も関与しています。遺伝的要因の関与は確立されていません。

症状は急性副鼻腔炎とほぼ同じですが、嗅覚障害を伴うことも多いです。

＜治療＞

急性憎悪を除いては一般的には薬物療法（抗生剤の少量長期投与）が推奨されていますが、ポリープ等で自然孔ルートが閉鎖されている場合は、薬物療法の効果が低いです。



（図４）

保存的療法の効果がない場合は手術療法となります。現在は内視鏡を使用した手術（内視鏡下鼻副鼻腔内手術；Endoscopic Sinus Surgery)が主流となっています。この治療法のコンセプトは、粘膜は病的粘膜もなるべく残し、鼻腔と副鼻腔との十分な交通をつけることで粘膜の回復を促すということです。すなわち鼻と副鼻腔の交通路である自然孔を内視鏡的に拡大し（図４）、鼻と副鼻腔を一洞化するということです。鼻の中からしか触らないため、術後の顔面の腫脹もなく、手術時間が短く、手術中の疼痛や出血はほとんどないために入院期間の短縮（場合によっては外来手術）が可能です。またもうひとつの大きなメリットは、十分に副鼻腔を鼻内に開放することで、たとえ副鼻腔炎が再発しても、ある程度は外来にて処置ができる構造に造り換えられることです。

ただ構造上、鼻・副鼻腔は頭蓋底と眼球に接しているため、手術のRiskは、１）眼周囲の血腫　２）髄液鼻漏　３）視機能・視野障害　などがあります。施設によって異なりますが１％以下ですが、副損傷が起こり得ます。

＜参考文献＞

１）　日本鼻科学会急性鼻副鼻腔炎診療ガイドライン作成委員会　編
：急性副鼻腔炎診療ガイドライン．日鼻科会誌 49: 53-84, 2010.

２）　日本鼻科学会　編 ：慢性副鼻腔炎診療の手引き

メリークリスマス

12月20日、恒例のクリスマスイベントを開催しました。
『イケメンサンタがプレゼントを持って病室に行きます』がテーマです。
今年の当院公認イケメンサンタは、辻副院長と遠藤副院長でした。お髭が大変お似合いです。
プレゼントは昨年のアンコールに答え毛糸の手袋にしました。
プレゼントをお渡しすると「大人になってサンタさんからのプレゼントは初めてだ。嬉しいなあ。」の言葉をいただきました。
患者さんの言葉や笑顔で私たちも癒され明日の活力へと変わりました。

ちょっと余談ですが、
メリー・クリスマスのメリーは
Merry、「楽しい」とか「愉快な」
という意味で「Merry Christmas」
つまり、「楽しいクリスマスを」
になります。

お辛い入院生活の中でも「楽しいクリスマスを」
過ごしていただけるようなイベントを来年も企画します。
広報委員　松井宣子

発　行
大阪船員保険病院／地域医療連絡室
〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30
TEL 06-6572-5721(代表)　FAX 06-6572-6713
http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei_tayori.html
Japan Council for Quality Health Care
日本医療機能評価機構